

決算説明会 -2017年3月期-

2017年5月25日（木）



空港施設株式会社
AIRPORT FACILITIES CO., LTD.

「私たちの使命」

空港を拠点とする活力ある民間企業として、
空港に必要な施設と機能を創造し提供する役割を担い、
航空の発展に貢献します。

テクニカルセンター【東京国際空港】



コンポーネントメンテナンスビル【東京国際空港】



格納庫（建設中）【北九州空港】



パイロット訓練施設【シガポール・セクター空港】



目 次

I.	2017年3月期 連結決算概要	・ ・ ・ ・ ・	P1
II.	2018年3月期 連結業績予想	・ ・ ・ ・ ・	P7
III.	トピックス	・ ・ ・ ・ ・	P10
IV.	中期経営計画	・ ・ ・ ・ ・	P15

I. 2017年3月期 連結決算概要

～ポイント～

1. 売上・利益とも前年度実績・実績予想を上回る

2. 売上高216億円(対前年同期比4.6%増)、営業利益38億円(対前年同期比29.9%増)
当期純利益21億円(対前年同期比11.1%増)

3. 期末配当金7円（1円増配）、年間配当金は13円を予定
配当性向（連結） 31.2%

I. 2017年3月期 連結決算概要

単位：百万円

中期経営計画 “Challenge to the next step”

連結	実績		目標		
	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期
売上高	21,111	20,698	21,650	22,070	22,540
営業利益	3,166	2,944	3,550	3,800	3,960
EBITDA+回収金	5,367	5,176	6,100	6,480	7,020
当期利益	1,505	1,935	2,140	2,160	2,270

連結配当性向
(年12円配当の場合)

41%

32%

29%

29%

27%

年間投資額

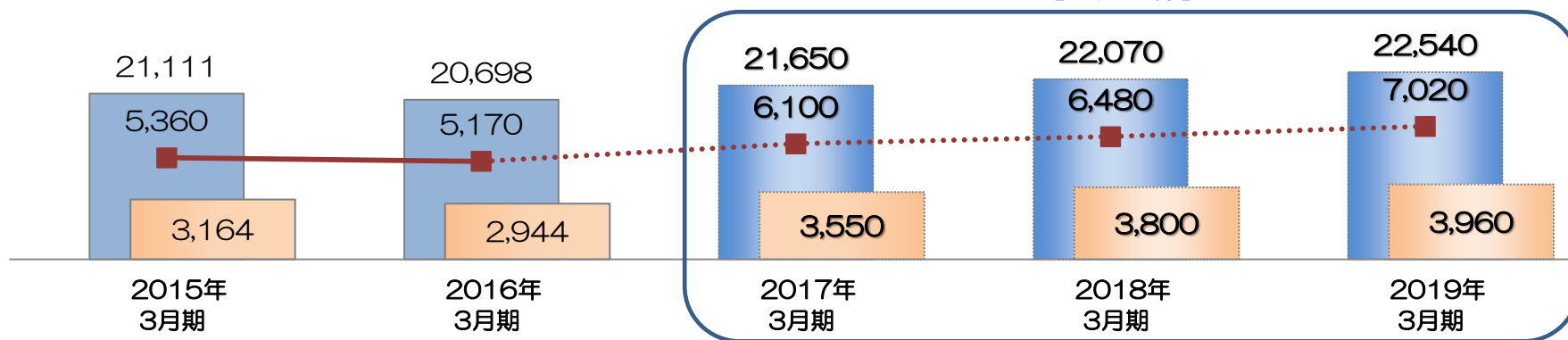
75億円／年程度を想定

■：売上高

■：営業利益

■：EBITDA+回収金

【数値目標】



<中期的な収支財務の計画について>

航空の発展に寄与するとともに、キャッシュフローを上回る積極的投資を行い、健全な財務基盤と利益成長を基礎とし、今後連結配当性向30%以上の、安定的かつ持続的な株主還元の増加を目指します。

※2016年10月27日公表

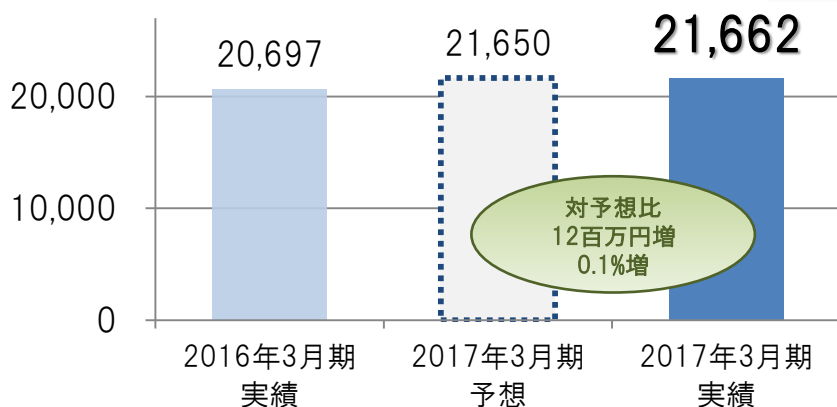
I. 2017年3月期 連結決算概要

単位：百万円

～連結PL～

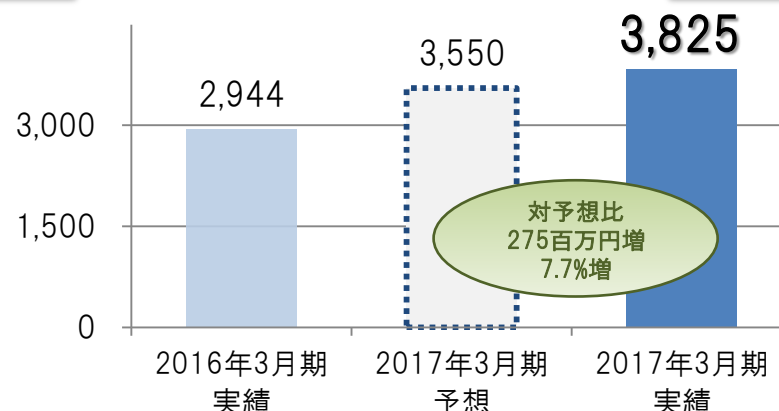
売上高

対前年同期比
964百万円増
4.6%増



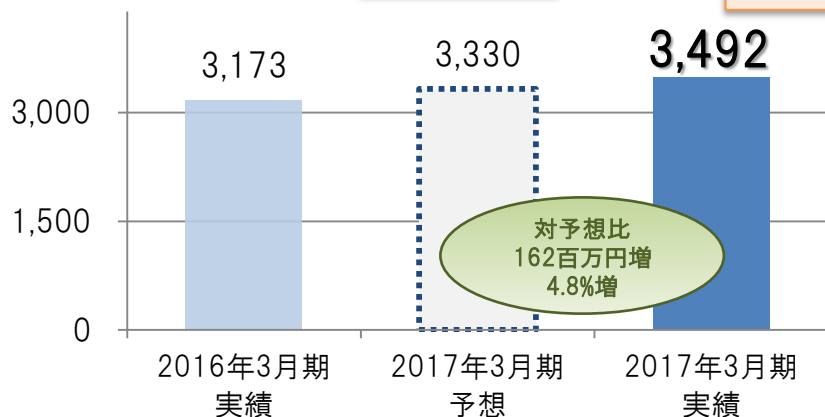
営業利益

対前年同期比
880百万円増
29.9%増



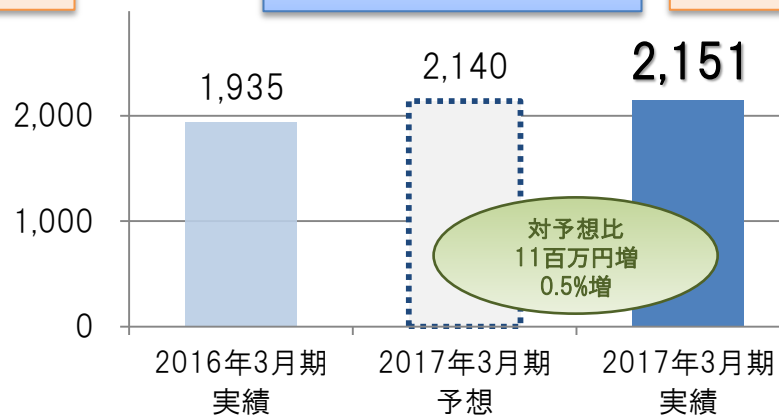
経常利益

対前年同期比
319百万円増
10.0%増



親会社株主に帰属する 当期純利益

対前年同期比
215百万円増
11.1%増



I. 2017年3月期 連結決算概要

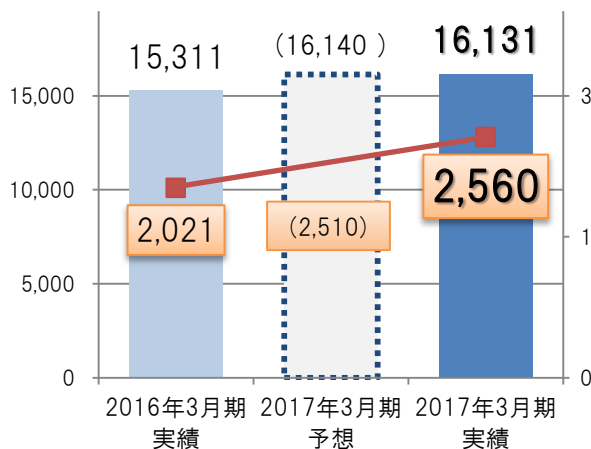
単位：百万円

～セグメント別～

■：売上高（棒グラフ）
■：営業利益（折線グラフ）

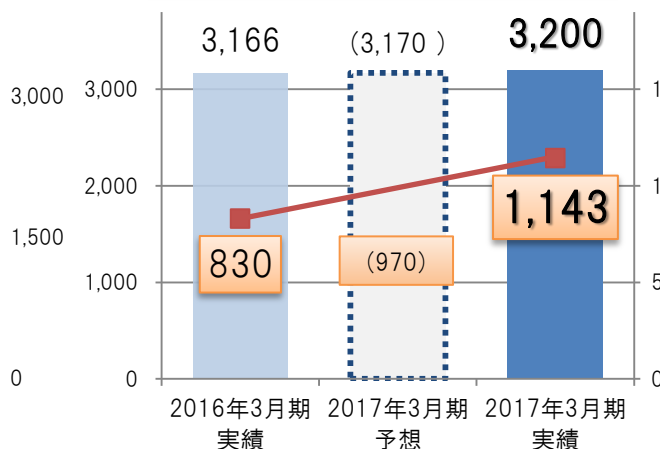
不動産賃貸事業

対前年同期比
（売上高）820百万円増（5.3%増）
（営業利益）538百万円増（26.6%増）



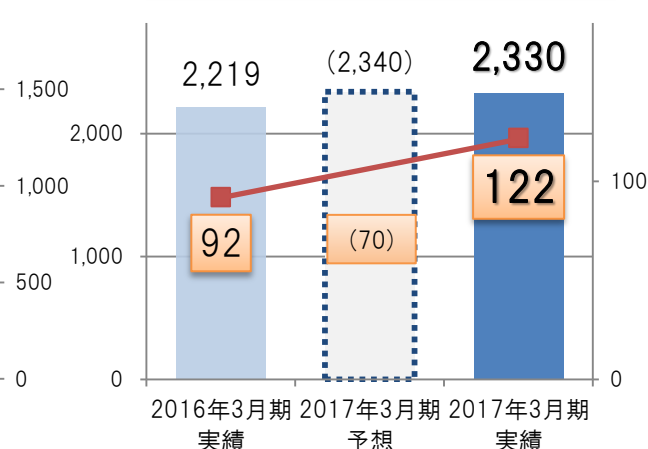
熱供給事業

対前年同期比
（売上高）33百万円増（1.0%増）
（営業利益）312百万円増（37.6%増）



給排水運営その他事業

対前年同期比
（売上高）110百万円増（4.9%増）
（営業利益）29百万円増（32.3%増）



《主な増減要因》

【売上高】

- ・羽田空港を中心としたテナント入居状況の改善
- ・羽田旭町ホテルの稼働
- ・シンガポール子会社の売上拡大

【売上高】

- ・羽田空港沖合地区の地域冷暖房売上が堅調に推移

【売上高】

- ・羽田空港の乗降客増加に伴う給排水の売上増加
- ・岐阜瑞浪ソーラー発電所の稼働

【営業利益】

- ・売上増の効果により増加

【営業利益】

- ・電気料、燃料ガスの値下がり等により増加

【営業利益】

- ・売上増の効果により増加

各セグメント共、ほぼ中期経営計画どおり推移、前年度比増収・増益

I. 2017年3月期 連結決算概要

～財務状況～

【連結貸借対照表】

(資 産) シンガポール子会社におけるリース資産等の増加により増加
 (負 債) テナント入居に伴う預かり保証金の増加等により増加
 (純資産) 利益剰余金の増加等により増加

2016年3月期

単位：百万円

流動資産	16,567	流動負債	8,462
		固定負債	25,107
固定資産	68,647	負債合計	33,570
		純資産	51,644
資産合計	85,214	負債純資産合計	85,214

前事業年度比
2,365百万円増

1株当たり純資産	965円
自己資本比率	58.5%

2017年3月期

単位：百万円

流動資産	19,216 (+2,648)	流動負債	8,556
		固定負債	25,608
固定資産	68,363 (△283)	負債合計	34,165
		純資産	53,415
資産合計	87,580 (+2,365)	負債純資産合計	87,580

1株当たり純資産	995円
自己資本比率	58.7%

I. 2017年3月期 連結決算概要

～財務状況～

【 連結キャッシュ・フロー】

単位：百万円

科 目	2016年3月期	2017年3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	809	3,024	2,215
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,453	△3,048	△594
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,731	△137	△1,868
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	83	△260	△344
現金及び現金同等物の期首残高	5,891	5,974	83
現金及び現金同等物の期末残高	5,974	5,713	△260

【主な増減要因】

営業活動によるキャッシュ・フロー	税引前当期純利益の増加、 営業貸付金の貸付に伴う支出の減少
投資活動によるキャッシュ・フロー	固定資産の取得による支出の減少、 固定資産の売却による収入が当連結会計年度では発生しなかったため
財務活動によるキャッシュ・フロー	長期借入れによる収入の減少

Ⅱ. 2018年3月期 連結業績予想

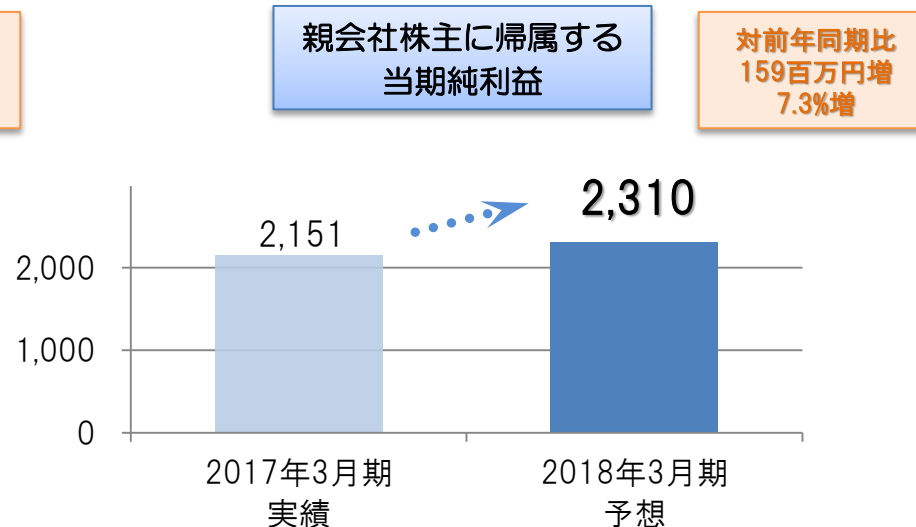
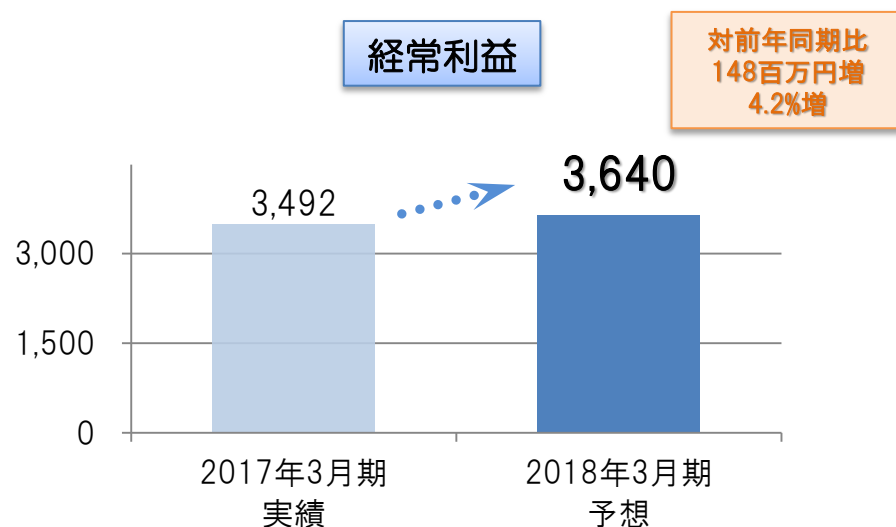
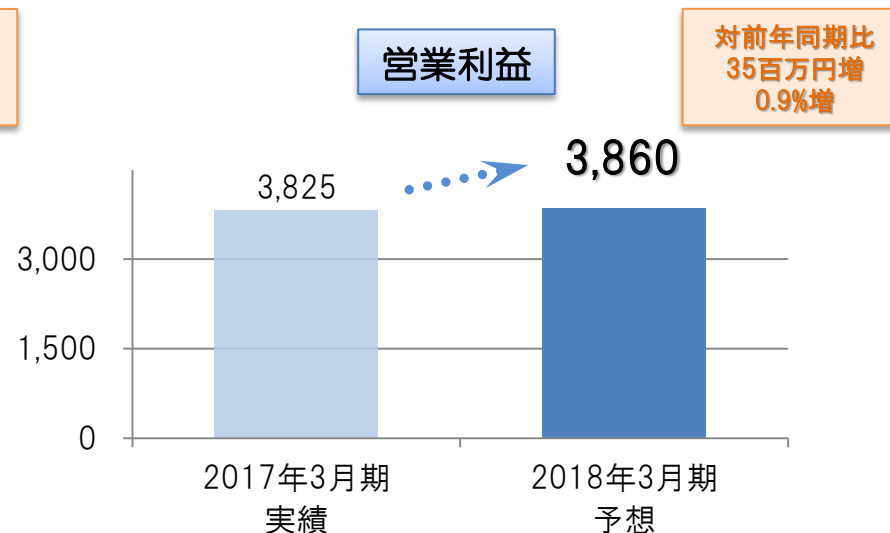
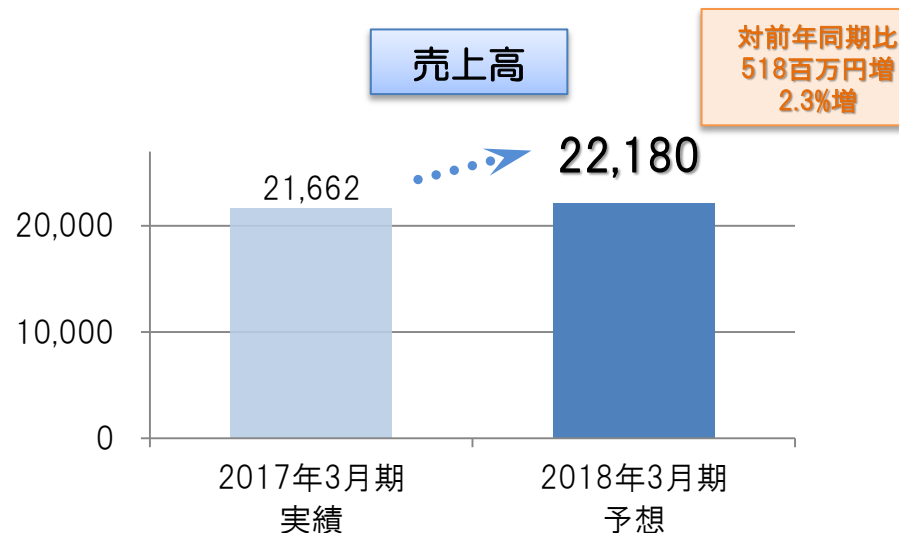
～ポイント～

1. 新規案件の稼働で売上・利益とも前年度を上回る見込み
2. 売上高221億円（対前年同期比2.3%増）、営業利益38億円（対前年同期比0.9%増）
当期純利益23億円（対前年同期比7.3%増）
3. 前期から更に1円増配、年間配当金は14円を予定
配当性向（連結） 31.3%（予定）

Ⅱ. 2018年3月期 連結業績予想

単位：百万円

～連結PL～



Ⅱ. 2018年3月期 連結業績予想

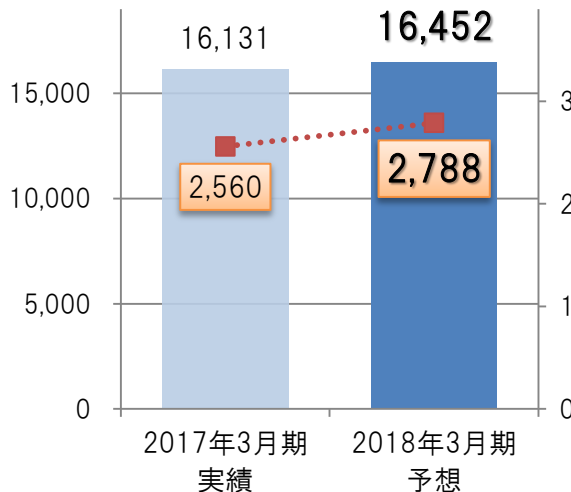
～セグメント別～

単位：百万円

■：売上高（棒グラフ）
■：営業利益（折線グラフ）

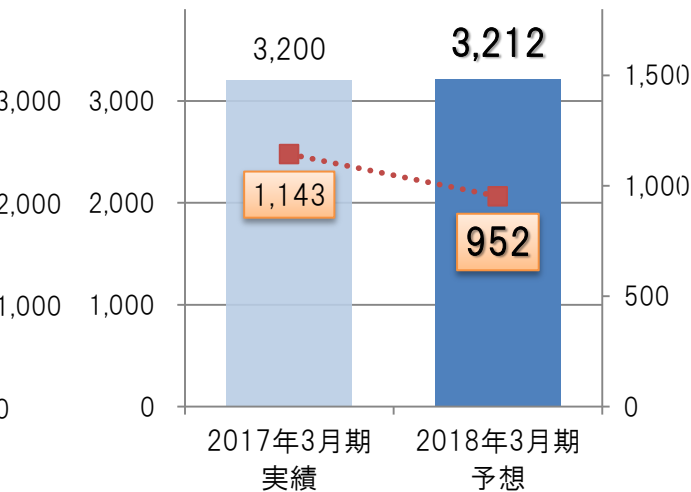
不動産賃貸事業

対前年同期比
（売上高）321百万円増（1.9%増）
（営業利益）228百万円増（8.9%増）



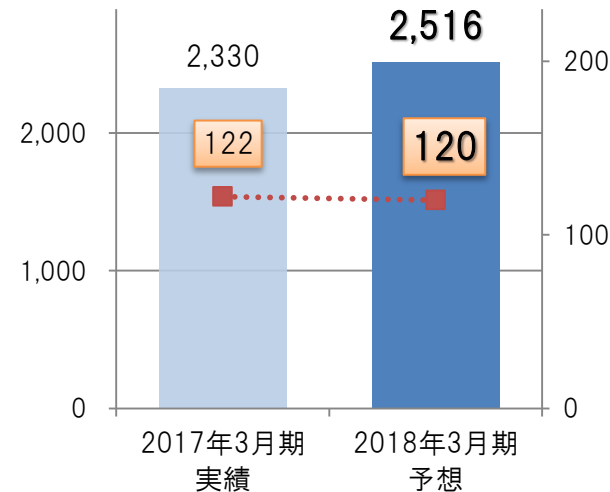
熱供給事業

対前年同期比
（売上高）12百万円増（0.3%増）
（営業利益）191百万円減（16.7%減）



給排水運営その他事業

対前年同期比
（売上高）186百万円増（7.9%増）
（営業利益）2百万円減（1.6%減）



《主な増減要因》

【売上高】
・テナント入居状況の改善（羽田）
・地方空港での施設稼働（北九州・仙台）

【営業利益】
・売上増の効果もあり増加

【売上高】
・羽田空港沖合地区の地域冷暖房売上が堅調に推移

【営業利益】
・電気料、燃料ガスの値上がりを見込み減少
・償却費の増加を見込み減少

【売上高】
・羽田空港の乗降客増加に伴う給排水の売上増加
・新千歳空港における給排水事業の開始

【営業利益】
・売上増加を見込むが償却費の発生を見込み減少

Ⅲ. トピックス

羽田空港及びその周辺

羽田空港跡地第1ゾーン整備事業（第一期事業）

当社参画グループ 整備・運営事業予定者に決定

代表企業：鹿島建設(株)

構成員：空港施設(株)、京浜急行電鉄(株)、大和ハウス工業(株)、東京モノレール(株)

日本空港ビルデング(株)、野村不動産パートナーズ(株)、東日本旅客鉄道(株)、富士フィルム(株)

（事業内容）

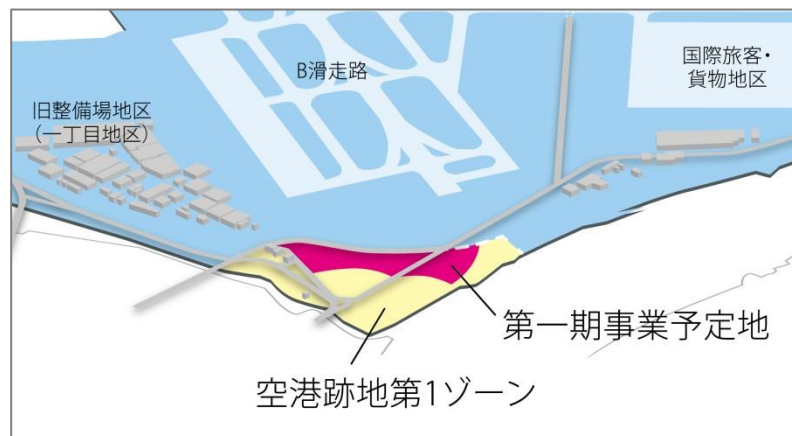
- ・ 先端産業事業：企業誘致エリア
イノベーション創出エリア
- ・ 文化産業事業：クールジャパン発信施設
- ・ 共通事業：エリアマネジメント業務等

（今後のスケジュール）

- ・ 基本協定・事業契約の締結：2017年8月頃
- ・ 対象地の貸付開始：2018年9月頃
- ・ まちづくりの概成：2020年



【空港全体図】



【拡大図】

Ⅲ. トピックス

羽田空港及びその周辺

乗員訓練施設の提供

【大型格納庫】

- ・テナント : 全日本空輸(株)
- 用 途 : 乗員訓練施設
- 入 居 日 : 2016年4月



【シミュレーター(大型格納庫内設置)】



【大型格納庫】

【メンテナンスセンターアネックス】

- ・テナント : Flight Safety international Japan(株)
- 用 途 : 乗員訓練施設
- 入 居 日 : 2016年11月



【シミュレーター】
(メンテナンスセンターアネックス内設置)



【メンテナンスセンターアネックス】

Ⅲ. トピックス

羽田空港及びその周辺

空港内での事務所等提供

【ユーティリティセンタービル】

- ・テナント : スカイマーク(株)
- 用 途 : 事務所
- 入 居 日 : 2016年12月



【ユーティリティセンタービル】

〈2015年以降の主な入居テナント〉

- ・テナント : (株)ソラシドエア
- 用 途 : 事務所
- 入 居 日 : 2015年4月



- ・テナント : ANAスカイビルサービス(株)
- 用 途 : 事務所
- 入 居 日 : 2015年12月

Ⅲ. トピックス

地方空港

新規施設（格納庫・乗員訓練施設）の提供



【新千歳空港】《新規》

着工：2017年7月(予定)
竣工：2017年11月末(予定)
用途：GSE車両用格納庫
賃貸先：(株)エスエーエス

【仙台空港】《新規》

着工：2017年2月
竣工：2017年7月末(予定)
用途：小型機用格納庫
賃貸先：オールニッポンヘリコプター(株)

【鹿児島空港】《新規》

着工：2017年7月(予定)
竣工：2017年11月末(予定)
用途：乗員訓練施設
賃貸先：日本エアコムター(株)

【北九州空港】

着工：2016年12月
竣工：2018年1月(予定)
用途：飛行整備用格納庫
賃貸先：三菱重工業(株)

新千歳空港にて給排水運営事業開始

2017年4月より、新千歳空港での給排水運営事業を開始

《今後も地方空港事業への取り組みを推進して参ります》

Ⅲ. トピックス

太陽光発電事業

太陽光発電設備の新規建設

2017年7月、(株)東京流通センターが建設中の「物流ビル新B棟(仮称)」屋上にて当社4棟目となる太陽光発電設備の建設を予定

※竣工は、2018年1月頃を予定



(株)東京流通センター物流ビル新B棟(仮称)
屋上太陽光パネル【完成予想図】

<本設備の特徴>

設置予定の太陽光パネルは、都心最大級の規模
※定格出力：約2,000Kw

年間発電量は、約620世帯分を想定

<これまでの取り組み>

本三里塚ソーラー発電所	(千葉県成田市)
鹿児島空港格納庫(屋上)	(鹿児島空港)
岐阜瑞浪ソーラー発電所	(岐阜県瑞浪市)

《空港・航空関連施設における再生可能エネルギー等の事業を進めて参ります》

IV. 中期経営計画

当社使命

外的環境の変化



7つの分野への取り組み

羽田空港

羽田空港周辺

地方空港

海外

●羽田空港及び同空港周辺での取り組みの一層の充実

●変化する
地方空港
事業等への
取り組み

●アジアなど
海外需要の
取り組み

●新機材増に伴う、MRO、飛行訓練、航空機部品調達などに関連する事業

●お取引先との連携を基にした取り組み

・貨物事業の高付加価値化

・優良都市開発

・動産リース

・動産リース

●事業領域の拡張を目指す取り組み

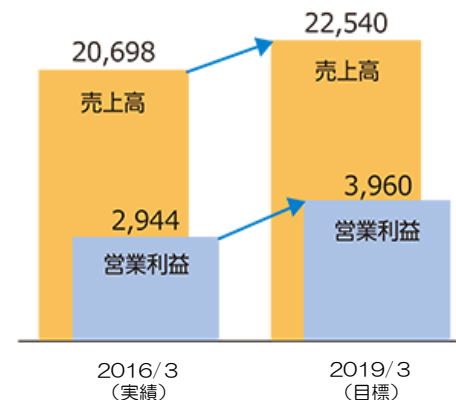
・航空・空港関係
でのホテル事業
の運営

・空港に関連した再生エネルギーの
供給等に関する事業

・コスト内製化、効率化

●ビジネスジェット関連事業

単位：百万円



年	実績	目標		
	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3
売上高	20,698	21,650	22,070	22,540
営業利益	2,944	3,550	3,800	3,960
EBITDA +回収金	5,176	6,100	6,480	7,020
当期純利益	1,935	2,140	2,160	2,270

免責事項

ご注意

- 本資料は、投資勧誘の目的のための資料ではありません。
- 将来に関する部分については、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、事業環境の変化などによって異なる結果になる可能性があります。
- 投資等に関する重要な決定は、ご利用者のご判断でお願い申し上げます。

本資料は、ホームページでもご覧頂けます。

<http://www.afc.jp/>

お問い合わせ先

空港施設株式会社 広報室

TEL : 03-3747-0253

FAX : 03-3747-0225

E-MAIL : afc@afc.jp